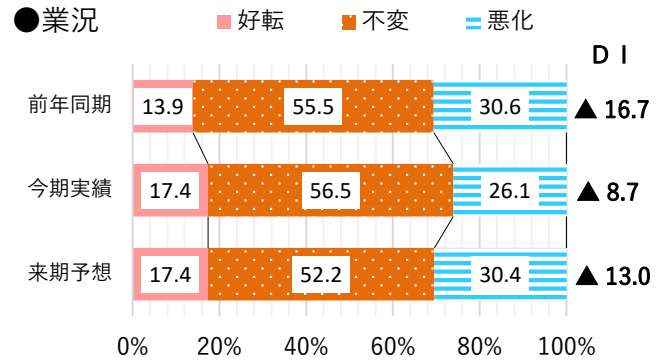


製造業

業況、売上、採算

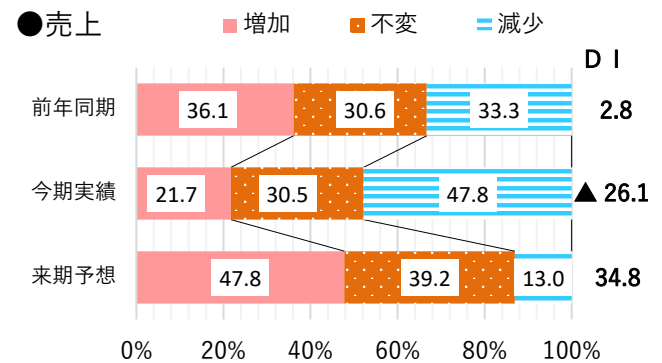
今期（2026.1～3）の業況DIは▲8.7で、前年同期（2025.1～3）と比べ8.0ポイント上昇しました。

来期（2026.4～6）の業況DIは今期（2026.1～3）と比べ4.3ポイント低下すると予想しています。



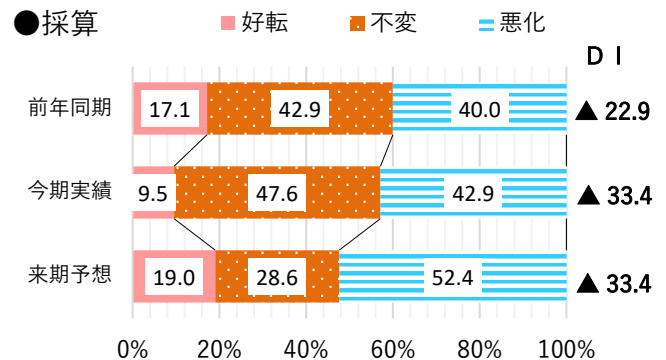
今期の売上DIは▲26.1で、前年同期と比べ28.9ポイント低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ60.9ポイント上昇すると予想しています。

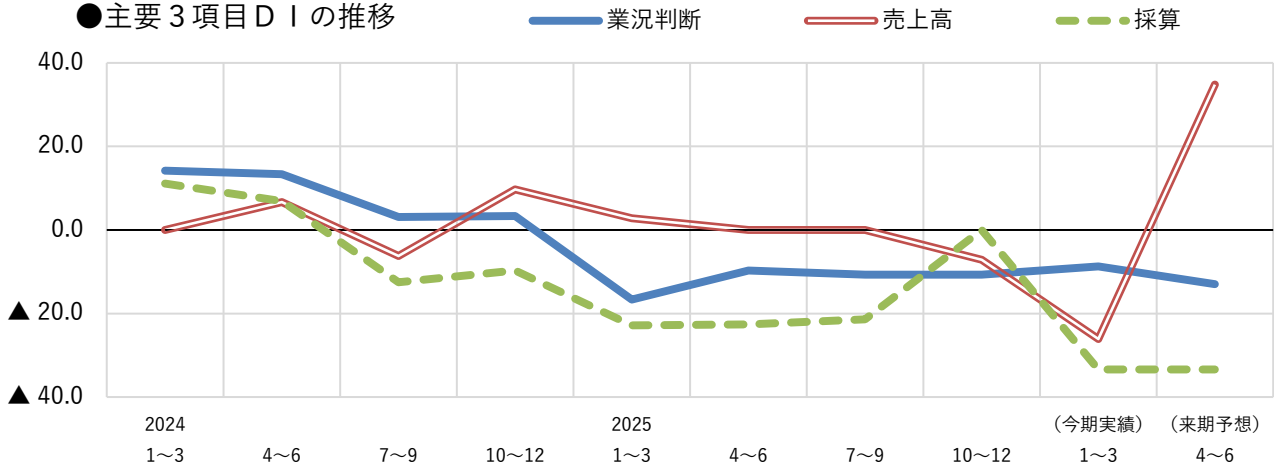


今期の採算DIは▲33.4で、前年同期と比べ10.5ポイント低下しました。

来期の採算DIは今期と比べ変化なしと予想しています。



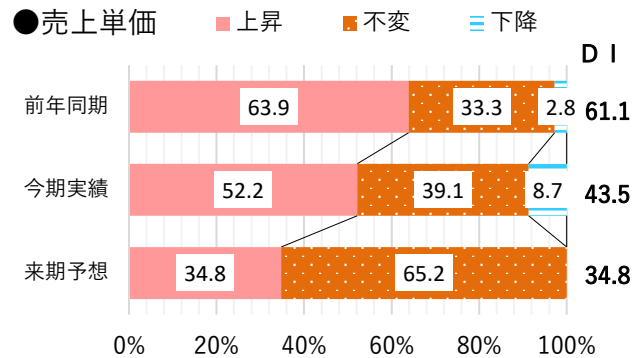
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

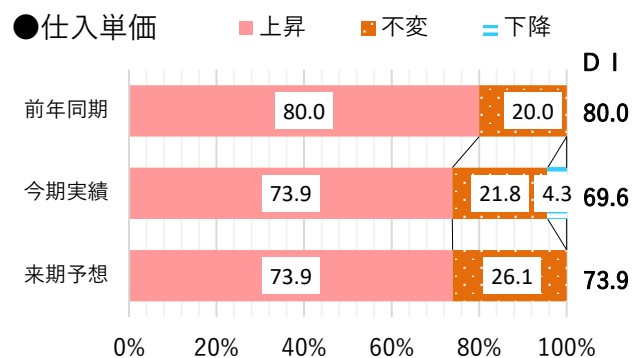
今期の売上単価DIは43.5で、前年同期と比べ17.6ポイント低下しました。

来期の売上単価DIは今期と比べ8.7ポイント低下すると予想しています。



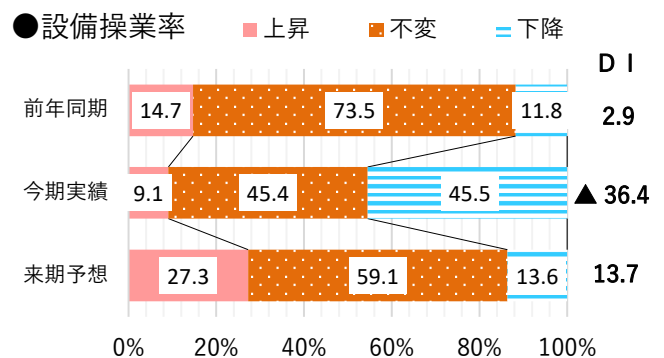
今期の仕入単価DIは69.6で、前年同期と比べ10.4ポイント低下しました。

来期の仕入単価DIは今期と比べ4.3ポイント上昇すると予想しています。



今期の設備操業率DIは▲36.4で、前年同期と比べ39.3ポイントと大幅に低下しました。

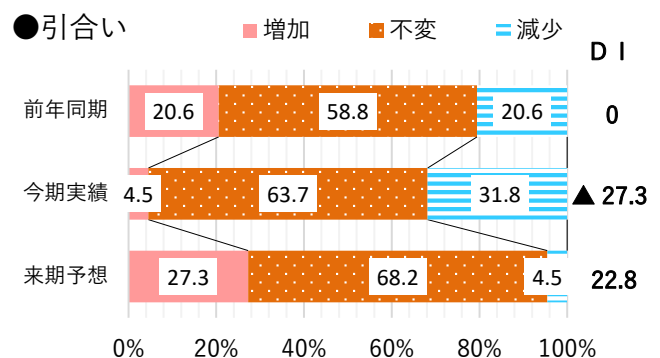
来期の設備操業率DIは今期と比べ50.1ポイント上昇すると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲27.3で、前年同期と比べ27.3ポイント低下しました。

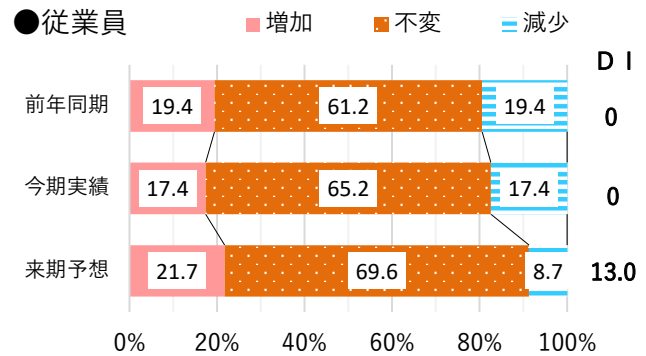
来期の引合いDIは今期と比べ50.1ポイント上昇すると予想しています。



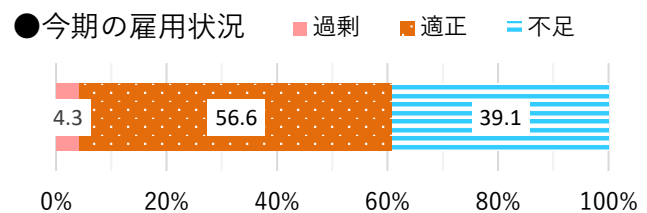
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0で、前年同期と比べ変化なしとなりました。

来期の従業員DIは今期と比べ13.0ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業は4.3%、適正であると回答した企業の割合は56.6%、不足していると回答した企業の割合は39.1%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、39.1%を占めました。

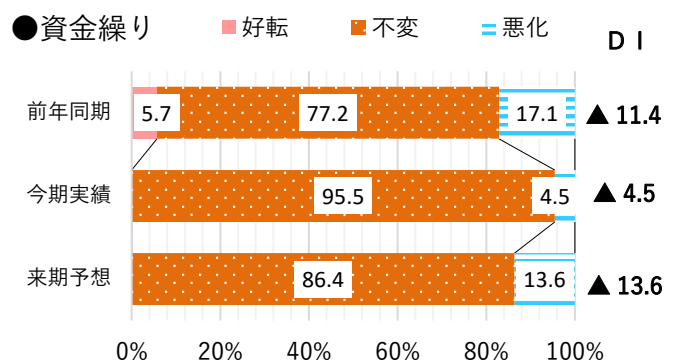
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	13.0%
	不足	4.3%
不変だった	過剰	4.3%
	適正	39.1%
	不足	21.7%
減少した	過剰	0%
	適正	4.3%
	不足	13.0%

回答総数23社

資金繰り、設備投資

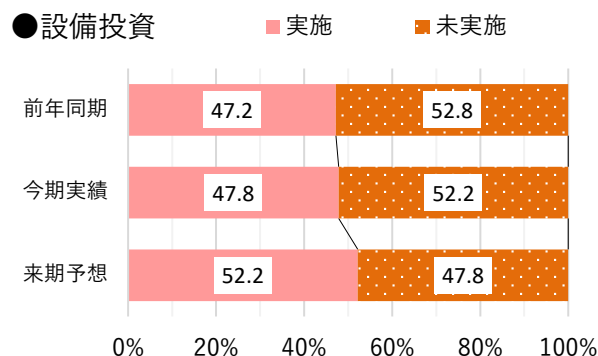
今期の資金繰りDIは▲4.5で、前年同期と比べ6.9ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ9.1ポイント低下すると予想しています。



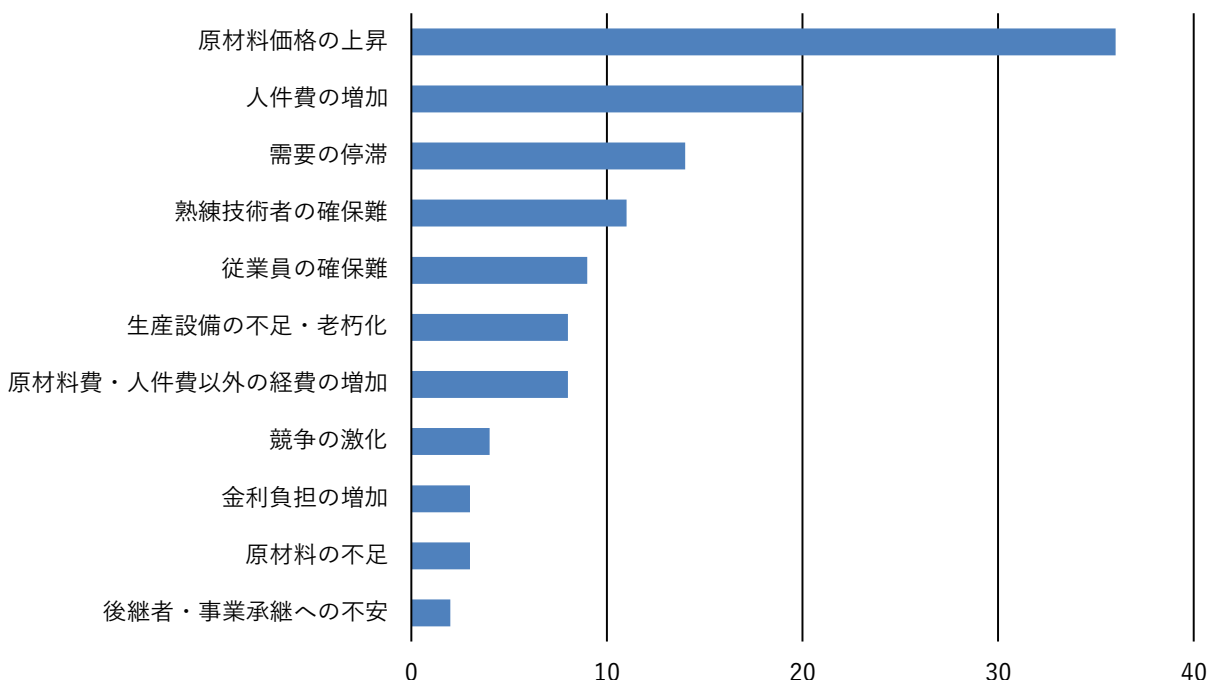
今期の設備投資は47.8%が実施と回答し、前年同期と比べ0.6%上昇しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「車両運搬具」「付帯施設」「OA機器」「福利厚生」（同位）でした。

来期は52.2%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「人件費の増加」、3位が「需要の停滞」の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 主原料である水産物の不足と価格の高騰により、採算が悪化した。（食料品）
- 利益確保の整備を進めた。（食料品）
- 人材確保が課題である。（食料品）
- 遅れていた複数の大型プロジェクトが動き出したので、薄日が差してきた。（金属製品）
- 農業と水産が好調ではないが、売値の上昇で売上高に大きな変化はない。物価高騰の影響で売上数量は減少し、仕入価格は上昇傾向にある。人材確保面では退職によって減少した人のを補充はできているが必要人員の確保は難しく、賃金を上げざるを得ない。（プラスチック）
- 受注が減少しており、定時まで工場の稼働が実施できない部門がある。また、新卒採用は決定したが、予定人員には達していない。（プラスチック）

- 仕入価格と賃金の上昇に対し、販売価格への反映が追いついていない。（プラスチック）
- 主要な材料費の高騰と受注件数の減少によって業況が悪化した。（紙製品）
- 防衛省関連の被服類の発注が増加した。（衣服）
- 機械の故障でクリーンルーム用シューズの生産量が減少し、前年同期よりも売上が落ちた。履物事業に大きな変化はないが、直営店事業は当初の見込みよりも利益が芳しくない。（ゴム製品）
- 受注数が増加した。（その他繊維製品）

[来期の業況について]

- 原油価格高騰等の影響がどの程度出るのか予想がつかない。（食料品）
- 主原料の水産物の状況が不透明で予想が難しい。（食料品）
- 原材料費の高騰を予想する。（食料品）
- 引き続き人材確保が課題と見込む。（食料品）
- 大型プロジェクトの本格稼働を予想し業況の好転を想定しているが、アメリカ、イスラエルとイランの軍事衝突の影響が懸念材料である。（金属製品）
- 2月時点では今期と大きく変化しないと予想していたが、3月中旬に入り米国によるイラン攻撃の影響で、資材の調達先がフォースマジュール宣言を行った。その結果、5月以降の製造、販売の予想が立たなくなった。（プラスチック）
- 円安とアメリカ、イスラエルのイラン攻撃による原油価格の上昇が重なり、原材料価格は大幅に上昇すると考えられ、得意先への値上交渉も難しいので採算は悪化すると見込む。（プラスチック）
- 世界的な原油高が長期化する見通しで、重油・ガソリン価格の上昇が経費を圧迫している。来期は年間を通じて利益確保が難しい時期にあたるため、より慎重なコスト管理が求められる。
（ゴム製品）
- 受注数の減少と仕入価格の上昇を見込む。原油価格については不透明だが経費増加を予想する。
（その他繊維製品）